

あした天気になあれ



「モンテッソリー教育法有資格者、子育てカウンセラー」関谷久美子先生のご家族向けコラム

ねむの木学園 宮城まりこさん（2）

学園の展覧会には、都合がつく限り足を運びました。いつも会場の一角にピアノが用意されていて、絵を見に来てくれたお客様に感謝の気持ちをこめて音楽のプレゼントがありました。指揮、司会、進行をまりこさん
ピアノは学園のスタッフのお姉さん、歌うのは子どもたち10人くらいです。
いつもその場にいると胸がいっぱいになって、どういうわけか一人涙がとまらなくなつて困ってしまいました。

何にそんなに心を動かされるのだろう・・・わたし自身の謎でした。
この謎をといていく作業は、「わたし自身の心の中をのぞきこむ」ことを意味しているのだと気が付きました。

ちょっと話が脱線しますが、人の話を聞くとき、「心の中をそっとのぞかせてね」くらいの気持ちでいること、決して土足ですかずか踏み込まない、ということは、モンテッソーリの教育方を学んでいるときにもよく指導されました。

話をもどすと、子どもたちと向き合うとき、どんなことが大事だと思いますか？
それが親子という立場であっても、教師と生徒という立場、あるいは知り合いのおばさんとよくご挨拶してくれるかわいい子、でもなんでも同じです。
年齢差から知識も経験も大人の方が豊かでしょう。でもそれは、当たり前のこと。
一人の人間として、優しさ、信じることができる綺麗な心、など子どものもっている素晴らしいしさに気が付けば、お互いに自然と敬意をもった接し方ができるのではないか
うか・・・。嘘やごまかしはきっと全部見抜かれています。

その子が持っている素晴らしい力を大事に育んでいくにはどんな手伝いが必要なのか。
冷静な判断をしながら、繰り返し繰り返し燃えるような熱い心を持って子どもたちと関わっていく。まりこさんのそういうところに共感して、それを実現させていることに感動していたのでは・・・。

という結論にいたりました。

関谷 久美子

ブログURL (<http://www.kaeru-clinic.jp/pc/free257908.html>)

